

H-28

135
4
620

新野田要輔著

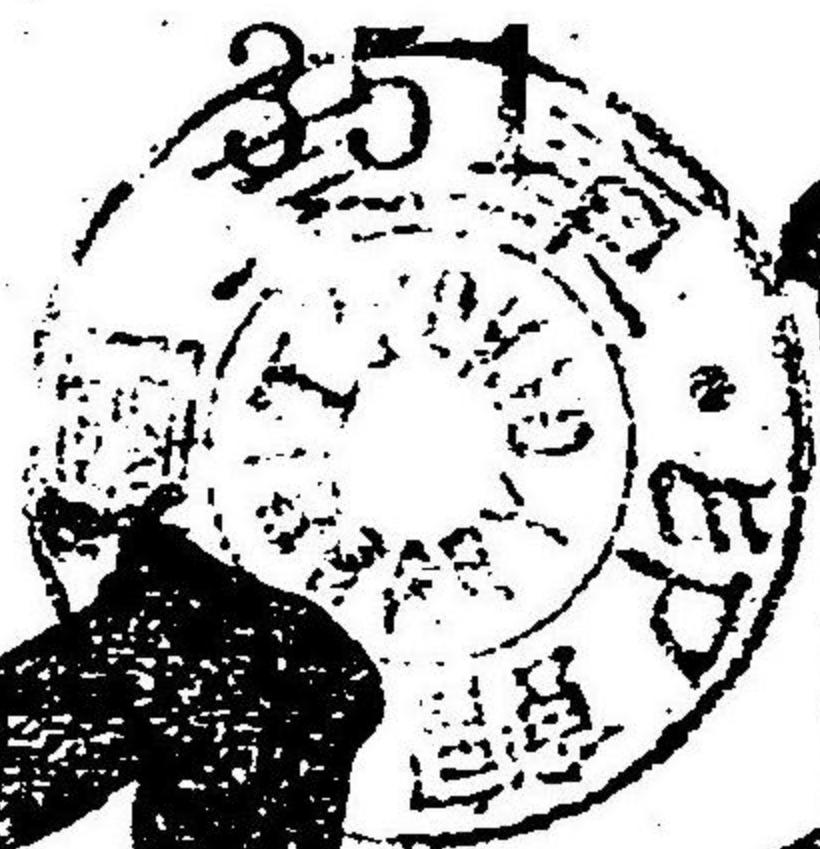
國會
準備
不可不講
全

埼玉

新野田藏

特49

No 11541



時事



山
豆
切

明治二十一年七月中浣

柳陰居士書



準國會不可不講

新野田要輔著

上戸ハ上戸下戸ハ下戸ト各其嗜ム所
ニ偏スルハ人情ノ常ニシテ自由自在
ナリト雖也今家翁已レカ嗜ム所ノモ
ノチ全家ニ嗜シメント欲スルモ到底
爲シ能ハサル可シ況ンヤ國家ノ廣大
ナルニ於テオヤ政治モ之ニ異ナラス
主權者カ公議輿論ヲ毫モ顧視スル事

ナク已レカ平素懷抱スル主義ヲシテ
 施行セシメント欲セハ恰モ家翁カ嗜
 ム所ノモノヲ全家ニ嗜マシメントス
 ルニ異ナラス否強食セシメント爲ル
 ニ均シカル可シ
 今ヤ我邦ノ情態ハ人民漸ク從來ノ陋
 習ヲ脫離シ壓制ノ束縛ヲ解放シテ自
 由ノ空氣ヲ呼吸スルノ盛域ニ至ラシ
 トス外想ヨリ見ル片ハ文化逐日驥々
 トシテ駟馬ニ駕スルト云フモ管ナラ

ス然リト雖モ内部ニ闖入スレハ上流
 社會ハ美服ヲ纏ヒ芳食ニ飽キ歌音ヲ
 弄スルカト思ヘハ下流社會ニ在ツテ
 ハ徹衣ヲ纏ヒ糟糖タモ猶且爲ス能ハ
 ス饑餓ニ叫ヒ溝壑ニ轉セントスルア
 リ豈懸隔ノ甚シキニ非ラスヤ
 抑モ世運ノ盛衰ハ數ノ免カレ難キ所
 ナリト雖モ本邦ノ如キ輓近歐風ニ摹
 擬スル日一日ヨリ甚シ政典ニ技藝ニ
 衣服ニ飲食ニ家屋ニ器物ニ一モ擬セ

サルモノナシ只西洋トサヘ云ヘハ直
 チニ之ヲ取用シテ其善惡是非ヲ識別
 セス敢テ之ヲ非議スルニ非サレト人
 情新ニ趣クヤ必ス蹈襲ヲ忌ム蹈襲ヲ
 忌ムノ弊自然浮虛輕薄ニ陷ラントチ
 杞憂ニ禁ヘサルナリ
 然リ而シテ現時ノ政談ニ漸進家ト急
 進家トノ別アレト其重ナル議論ハ左
 ノ如クナラン出版ノ自由言論ノ自由
 地租ノ輕減憲法ノ制定條約改正宗旨

ノ得失教育ノ可否殖産工業ノ擴張保
 安條例ノ改定其他一々枚舉ス可カラ
 スト雖ト憂國志士カ邦家ノ爲メ盡サ
 シト欲スルニ非ラステ何ソ
 愛國心ヲ懷ク者ニシテ幸不幸アルモ
 ノ、如シ廟堂君子ノ政務ニ鞅掌スル
 モ愛國者ナリ新聞記者カ筆ヲ執リ文
 チ記スルモ亦愛國者ナリ然リ而シテ
 文ヲ記スルニ方リテ知ラズ識ラズ言
 論過激ニ涉リ條例ニ抵觸シ法網ニ罹

リ鐵窓ニ呻吟シ苦楚ヲ嘗ムルモノアリ
 リ又保安條例發布ノ爲メ皇都三里外
 ヘ放逐ヲ命セラレタルモノモ公安ニ
 妨害アリト認メラレタルナリカナ
 レモ畢竟スルニ其要素ヲ探ヌレハ皆
 愛國心ノ深且切ナルヨリ效ス所ト言
 フモ敢テ過言ニ非ラサル可シ一ハ園
 園ノ中ニ吟嘯シ又ハ皇都ヲ放逐セラ
 レ東台ノ花墨陀ノ月ヲ眺ルヲ能ハス
 一ハ玉食ニ飽キ不自由ヲ感スルコト

ナシ人生眞誠ノ歡樂ハ孰レニアルヤ
 言ヲ俟ヌシテ知ル可シ
 今ヤ廟堂ノ君子賢明ニシテ銳意治ヲ
 爲シ其悲況ヲ眼然ニ視サルハ幸福ナ
 レモ此ヲ思ヒ彼ヲ想ヘハ我國家ノ爲
 メ人民ノ爲メ社會ノ爲メ痛歎ニ堪ヘ
 ス是レ現時政談家ノ囂々スル原因ナ
 ラン乎
 前既ニ述ルカ如ク闔國ノ人心ハ政治
 ノ一點ニ歸着シ漸進急進ノ二派ニ分

レ政府ハ漸進ニ傾向スルモソニ似タ
 レリ朝野ノ議論仮令ハ蜂巢ヲ衝突ス
 ルカ如ク今ニシテ後謀ヲ爲サスンハ
 遂ニ破壊ノ憂ヲ免レス因循趨起ニ安
 シスルナク官民親和抱合ノ道ヲ求
 メテ共ニ國家ノ進捗ヲ謀リ旭旗ヲ東
 洋ニ輝サスンハアル可カラス
 然ルニ在朝在野ノ狀況ハ是レ迄我カ
 味方ト思ヒタルモノモ敵ト乖キ敵ト
 見込タルカ却ツテ味方トナリ在朝・或

ハ在朝ト分レ在野ハ在朝ト相合スル
 モアリテ之カ爲メ意外ノ波瀾ヲ生シ
 意外ノ奇觀ヲ呈スルハ往々余輩カ目
 撃スル所ナリ如此ニテハ國會開設中
 間僅ニ一年ヲ隔ツル今日ニ在ツテハ
 對岸視ス可カラス宜シク其進路ヲ取
 ルノ方法ヲ講セサルヲ得ンヤ
 論者アリ曰ク民間ノ政事思想ハ太々
 幼穉ニシテ進取ノ氣象ニ乏シク國家
 ノ大事ヲ擔當ス可キ人物ニ至ツテハ

落々トシテ晨星モ嘗ナラス政府ノ深
 意ハ漸進主義ヲ取り輕躁ニ奔ラヌ急
 激ニ流レヌ改進ノ方針ヲ誤ラントチ
 期セリサルニ一方ニ於テハ急進ヲ主
 トシ請願ニ建議ニ演說ニ討論ニ種々
 ノ手段ニ因リテ政治ノ改良ヲ期セリ
 サナカラ水火ノ相鬪フカ如ク常ニ支
 吾シテ敵視スルノ狀アルハ豈遺憾千
 萬ノ至リニ非ラヌヤ云々又或ル論者
 ハ若シ其レ農工商ノ人民ヲシテ言論

ノ自由ヲ得セシムルモ其機ニ乘シテ
 所有ノ財産ヲ亡失シ遂ニ身代限ノ沙
 汰トナリ却ツテ犯罪人ヲ増加シ國家
 ノ不幸ヲ惹起スニ至ラン到底惡結果
 ヲ見ルニ過サル可シト
 右ノ議論ハ一理アルカ如クナレモ少
 シク事理ヲ解スルモノ、取ラサル所
 ナリ政機ノ運轉ヲシテ圓滑ナラシメ
 シト欲セハ政府ハ務メテ言論ヲ洞開
 シ公議輿論ノ如何ヲ觀察シ之ト詢リ

之ト議シ寛假以テ言ヲ容ル、ニ答ナ
 ラサレハ隨テ下情ハ上達シ上意ハ下
 達シ親密スルヲ得ルニ至ラン然スル
 キハ富國強兵期シテ俟ツ可シ
 自由黨ト言ヒ改進黨ト言ヒ黨派ハ各
 異ナリト雖_レ國利民福ヲ増加セシメ
 シト欲スル点ニ至ツテハ其揆一ナリ
 小異ヲ捨テ大同ヲ取リ國家ノ爲メ協
 力同心セサル可カラスサルニ方今ノ
 各黨派ヲ通觀スルニ彼ハ我ヨリ劣下

ナリ學識ナシ與ニ謀ルニ足ラスト自
 ラ尙フ_リ相下ラス然_リト雖_レ各黨互
 ニ競争シテ言論智識ヲ練磨シ活潑ノ
 運動ヲ試ミ自黨ノ目的トスル政治上
 ノ改革ヲスル爲メ諸事實致ニ就テ之
 ヲ調査シ以テ國會ノ設立ニ應スルノ
 準備ヲ爲スヲ聞カス軋_ノ間ニ貴重
 ナル日子ヲ經過スルアラハ如何ナル
 結果ヲ視ル可キヤ慨歎ニ堪ヘサルナ
 リ

我國民ヲシテ一意國會ノ準備ヲナシ
 數年前ヨリ想像セシ如ク十分ノ經驗
 ト熟練トヲ今日ニ得セシムルモ或ハ
 將來種々ノ障礙ニ出會シテ善良ナル
 國會ヲ造リ出ス能ハサルヤモ計ラレ
 ス故ニ十分ノ計畫ヲナスモ猶或ハ其
 目的ヲ達貫スル能ハサラントヲ恐ル
 是レ支離滅裂ノ不幸ヲ招カントヲ細
 心熟慮セサル可カラス
 西史ヲ繙クコトニ感慨措ク能ハサル

モノアリ今ヲ距ル凡ソ五百年ノ頃英
 兵深ク佛領ニ侵入シ類リニソノ城堡
 ヲ陷レソノ都邑ヲ略シ佛國ノ全土英
 王ノ掌握ニ歸セントセシ片忽チ一人
 アリ茅舎ノ中ヨリ身ヲ起シテ既ニ斷
 ナントシタル國運ヲ繫キ奪掠セラレ
 タル土地ヲ取却シ加旃レームスニ於
 テチャールス王ノ即位式ヲ舉行シタ
 リシ是レ織指細腰ノ一處女シヤンダ
 ークナリ抑モシヤンハ幼稚ノ時ヨリ

自ラ基督教ニ深ク心ヲ傾ケ毎ニ閑靜ナル森林ニ往キテ祈禱ヲナシ又ハ教會ニ出席シ或ハ牛馬ヲ追フテ老父ヲ扶ケ又深ク馬ニ乗ルコトヲ好メリ然リ而シテ英軍ハ益々猖獗ヲ極メ四方ヲ風靡シ佛ノ中土ニ攻入リタリケレハ是迄華煥ヲ極メタル市街ノ風情モ慘澹ノ景色ト變シ人心愈々胸々タリシヤンノ居所モ四隣皆敵トナリタレハダークノ一族ハ辛クモ此危難ヲ脱

シテ此所ヲ立退キタリキサルニ英兵向フ所敵ナク邦土皆英ノ蠶食スル所トナリ餘ス所ハチルアンノ一府トハナリタリ今ヤ佛國ノ命脈ハ且夕ニ迫レリ然ルニ奇異ノ際會ニ因リテ此危殆ノ大難ヲ極フヲ得タリ是レシヤンダークカ其神明ノ擁護ニ因ツテ必ス國家ヲ挽回ス可キノ命ヲ受ケタリト唱へ義兵ヲ舉ケテタルレアンノ圍ヲ衝キ自ラ先登激戰シテ國王ヲレ

ムスニ迎へ始メテ即位ノ禮典ヲ舉ク
 ルトヲ得タリ因リテ國內勤王ノ兵四
 方ニ蜂起シ次第ニ英兵ヲ掃攘シ惟カ
 レーヲ除クノ外ハ全國盡ク舊ニ復ス
 ルヲ得テ此ニ至リテ累世ノ兵禍初メ
 テ解ケ漸ク靜穩ニ至レリ又夫米國獨
 立ノ時ヲ看ヨ人民ハ英國ノ苛令虛制
 ニ耐フルト能ハス然ルニ英王ハ漫リ
 ニ兵威ニ頼リテ之ヲ抑壓セントセリ
 此ニ於テワシントン鳥合ノ衆ヲ率ヒ

無前ノ英軍ニ敵シ百戰百敗十餘年ノ
 苦戰ヲ侵シテ遂ニ善ク十三州ヲシテ
 獨立セシム則チ國民ノ輿論ヲ以テ建
 設シタル新政府ノ法憲ニ基キ大統領
 ニ推薦セラレシカニ快トセス漸クニ
 シテ就任シタリシ又佛國ナポレヲン
 ノ歐州ヲ擾亂スルニ方リ陸戰ハ兎角
 敗績多クシテリアラサレハ英國ニ於
 テハウエルリントヲ以テ元師ニ任
 スルニ及ヒ兵威大ニ振ヒ西班牙ト合

シテ佛軍ヲ攻撃シ大捷ヲ得タリサル
 ニナポレチンノ再ヒ帝位ニ登リ北侵
 スルニ當リ列國ノ兵之ヲウロトトル
 ロールニ迎ヘテ大戰スウエルリント
 豫テ和蘭比耳義阿諾威等ノ兵ヲ指揮
 シ終ニ大ニナポレチンヲ破リ大勢ヲ
 一定シタリキ此三氏ハ皆國家ノ紛擾
 ニ際シ生命ヲ鴻毛ヨリ輕ンシ國家ヲ
 泰山ノ安キニ置ケリ其偉勳ハ萬世ニ
 亘リテ朽チス

我邦ノ如キモ元來報國盡忠ノ士ニ乏
 シカラス舊幕府ノ末年ニ有志ノ士所
 在ニ蜂起シ其中ニハ攘夷家モアリ開
 國家モアリ其議論ニ派ニ分レ互ニ相
 軋リシカ氣運ノ然ラシムル所カ今日
 ノ盛運ヲ視ルニ至レリ然リト雖田眼
 晴チ本邦ノ境遇ニ放テハ西ニハ英佛
 アリ虎狼ノ如シ北ニハ魯アリ獅子ニ
 似タレリ東ニハ獨アリ狐狸ニ似タレ
 リ又最近ナル清國ハ昔時ノ辯髮奴ニ

非ラス益兵士ヲ繰練シ軍艦ヲ新調シ
 頗ル方針ヲ改進ニ傾クルモノ、如シ
 往年無頼ノ首魁瀏永福カ東京ニ於テ
 佛ノクールベール水師提督ヲ敗リシ一
 事ヲ以テ証スルニ足レリ其至強驚ク
 可キニ非ラスヤ戒心留意セスンハア
 ル可カラス
 國家ノ元氣ヲ振作セント欲セハ宜シ
 ク多數ノ人心ヲ纏メテ輿論ヲ鼓舞作
 興セスンハアル可カラス是レ一ハ集

會條例ノ寛假アラントヲ望ミ一ハ新
 聞條例ノ寛大ナラントヲ望ム如此ニ
 シテ在野ノ驩心ヲ集攬セハ熱心ニ國
 家ヲ思惟シ明治政府ノタメニ治策ヲ
 補翼スル一層深カル可シ然スルハ
 在朝ノ諸士ハ坐ニシテ擁護セラル、
 ニ至ランカ
 翻ツテ壯士ノ舉動ヲ觀察スレハ渠等
 カ天下ノ爲メニ奔走スルハ身ニ直接
 ノ利害ナクシテ他人ノ爲メニ盡カス

ルニ似タレリ身ニハ尺寸ノ田圃モ有
 セスシテ地租輕減ノ請願ヲ唱道シ身
 ニハ國會議員否縣會議員ノ資格ヲモ
 ナキニ國會議ノ事ヲ嗽々シ身ニハ常時
 ノ儲蓄タモナキニ殖産工業ヲ擴張セ
 シトシ其效果ハ皆他人ニ奪却セラレ
 テ毫モ痛痒ヲ感セサル者モアラシサ
 ルニソレヲシモ意トセス如此天下ノ
 爲メニ奔走スルハ愛國ノ情深切ナル
 ヨリノ結果ト言ハサルヲ得ス凡ソ社

會ノ事ハ所有財産ノ多寡若クハ有無
 ナ以テ愛國心ノ厚薄ヲトス可カラス
 善ク此ヲ合點スルハ壯士ノ舉動モ
 亦謂ハレナキトニソアル
 社會ノ事物ハ自然ノ必要ニ因リテ發
 生スルモノナレハ制止セント欲スル
 モ爲シ能ハサルヘシ強テ之ヲ制止セ
 シトスレハ却ツテ政事上ノ熱心ヲ發
 シ自然ニ言論ノ勢力ヲ増加セシ兎角
 人情ハ異ナモノニテ佞令ハ今茲ニ政

談演說ノ傍聽ヲ中止スレハ欲望者ノ
 熱度ヲ増加スルヲ見シ故ニ一方ニハ
 言論ノ自由ヲ得サセ公議輿論ノ勢力
 ヲ増加セシメ一方ニハ世ノ壯士輩ノ
 實致ニ政事上ノ熟練ヲナサシメント
 欲スル運動ヲ得セシムルニアリ
 斯ク論シ來ルモ世人政治上ノ運動ト
 ハ恐口敷モノ危険ナルモト思惟セ
 シ某辨士ノ演說ハ中止開散セラレ某
 新聞紙某雜誌發行停止セラレ某士秘

密出版ノ嫌疑ニヨリ拘引セラレ禁錮
 ニ處セラレ懲役トナル政府ニ於テ寬
 假ニ附セララル、好運ニ至ラハ是等ハ
 自然十日ノ菊ト過キ去リテ夢視スル
 ニ至リ政治上ニ冷淡ナリシモノ熱
 心家ト豹變シ却ツテ反動ノ結果ヲ視
 ル可キナリ
 惟フニ今日ハ我カ社會ノ大勢將ニ一
 變セントスルノ時期ナリ最早如何程
 變遷スル眞逆封建時代ノ如クナル氣

遣ハアテシ又小學近思錄ノ如ク道德
 一筋ニナルモ覺東ナシ又一向宗ノ南
 無阿彌陀佛ノ社會トモナラサル可シ
 サテハ如何ナルトニ成行クナラント
 考フレハ今論ヲ待タヌ優勝劣敗ノ戰
 場ニ生存スルナレハ益西洋日新ノ學
 ヲ攻究シ其品格ヲ高尚ニシ其能力ヲ
 増加シ其知識ヲ弘大ニシ其精神ヲ活
 潑ニシ其才力ヲ政治上ニ利用セント
 欲スルノ一方ニ傾向スルナラント思

ハル
 抑モ政治ハ人心ノ嚮フ所ニ付テ定マ
 ルモノナリ故ニ若シ政治家ニシテ人
 心ノ嚮ハサル所ニ政治ノ方針ヲ定メ
 シトスルモノアラハ恰モ木ニ縁リテ
 魚ヲ求ムルノ論ト一級到底效ヲ視サ
 ルノミナラス却ツテ害毒ヲ流スニ了
 ラシノミ逆流ニ舟ヲ行ラントスルハ
 航海ノ術ヲ未タ知ラサルモノナリ人
 心ノ嚮ハサル所ニ政治ノ方針ヲ定メ

ントスルハ未タ政治ノ術ヲ知ラサル
 者ナリソレ政治ハ吾カ一身一家ノ切
 要ナルモノナレハ一個人ノ幸福ヲ増
 進スルノ基本タルヲ知覺シ益愛國心
 ヲ振起作興シ焦眉ノ急ヲ講セサルヲ
 得ス焦眉ノ急トハ何ソ曰ク二十三年
 國會ノ準備是レナリ其方法ハ種々有
 之ト雖モ先ツ演說ニ討論ニ政社或ハ
 俱樂部ヲ設ケ或ハ雜誌新聞紙等ヲ發
 刊シ衆庶ヲ醒覺提擲シ内ハ政治ノ改

良ヲ希圖シ外ハ國權ヲ海外ニ伸張シ
 獨立ヲ保護スルノ氣力ヲ奮起セズン
 ハアル可カラサルナリ

國會不可不講終

H-28

明治三十一年七月廿三日印刷
同年同月廿七日出版

定價金卅錢

埼玉縣平民

著作者兼
發行者

新野田要輔

武藏國北葛飾郡
前谷村十番地

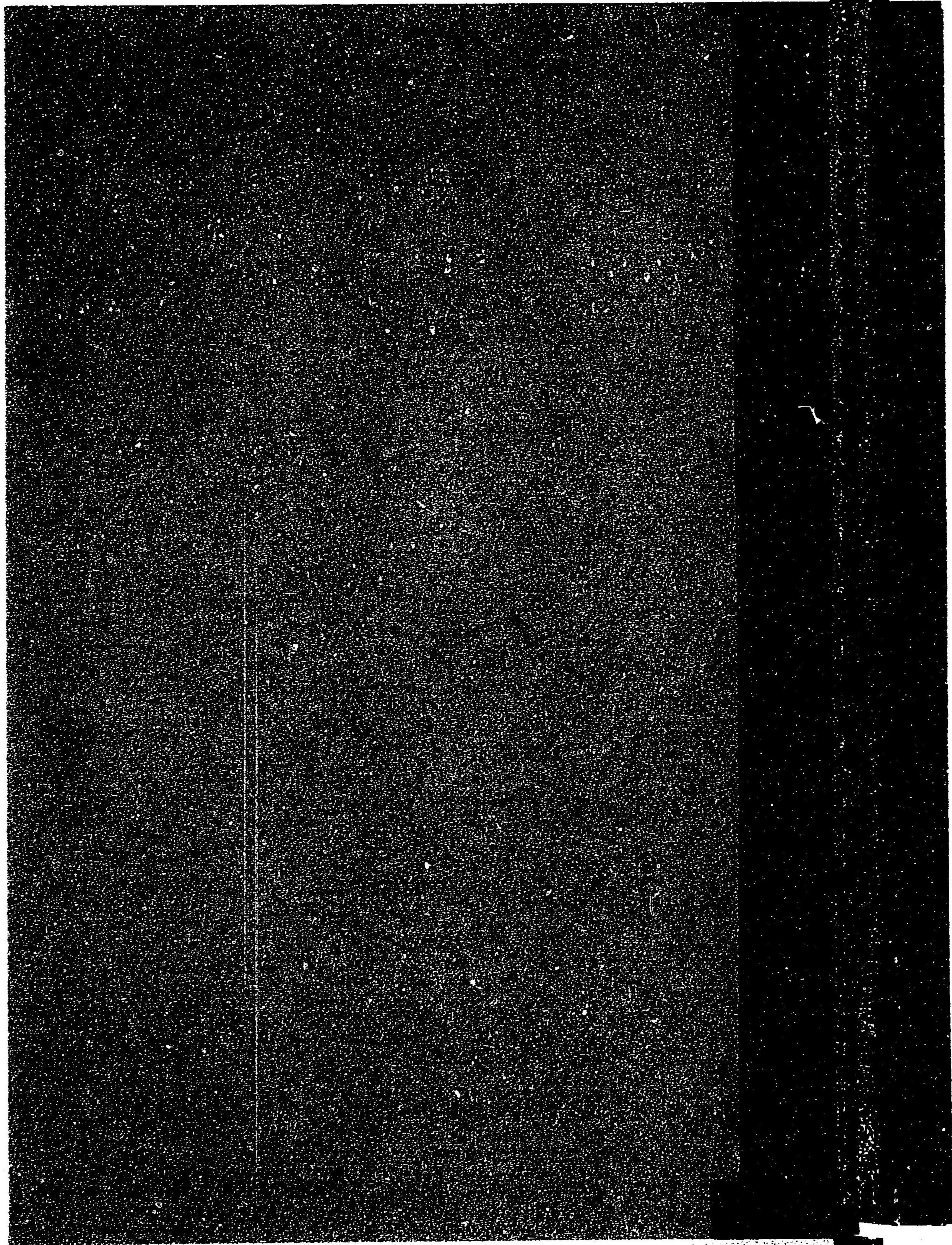
和歌山縣平民

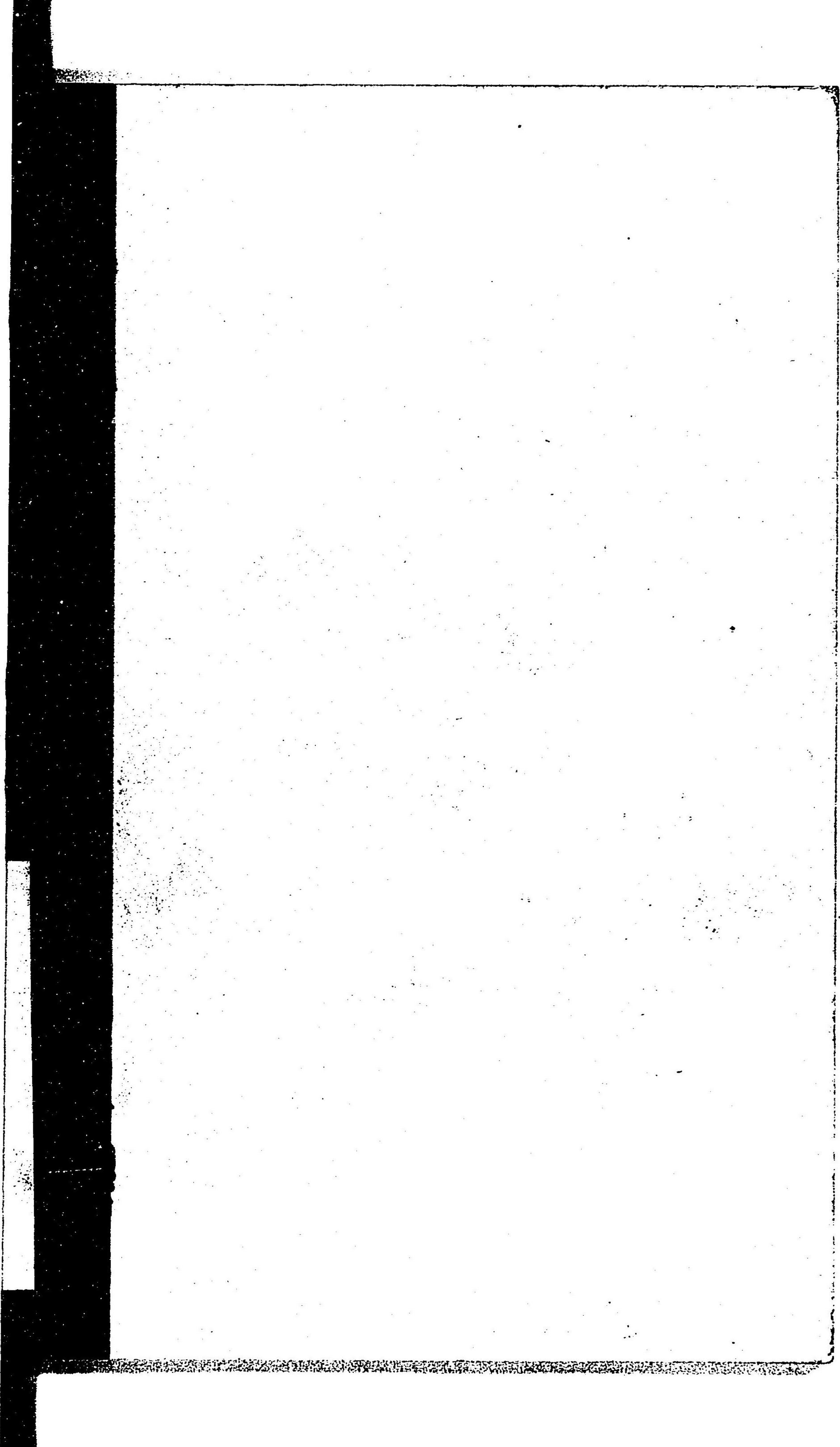
印刷者

辻

守之助

武藏國北足立郡鴻巣宿
百廿五番地寄留





特49

351

國會準備不可不講

新野田要輔

国立国会図書館

028554-000-1

特49-351

国会準備不可不講

新野田 要輔/著

M21

BAB-0225

